やっかいもので、ハンカチをあざやかな色に染めよう

オオキンケイギクは、花がきれいなので外国から日本に持ちこまれましたが、今では、はんしょく力が強いので、駆除しなければならない植物となっています。この花の黄色は、クエン酸で簡単に取り出すことができ、ほかの草木染めとちがって加熱することなく、布を染めることができます。花を集めることにより、種子で増えるのを防ぐことができますので、草木染めを楽しみながら、外来種（外来生物）の広がりをおさえられて一石二鳥です。

用意するもの

ペットボトル
＊1.5Lのものがよい。

＋

ざる

＋

クエン酸
＊そうじ用のものが100円ショップで手に入る。

焼きミョウバン
＊スーパーマーケットなどで、つけ物用の焼きミョウバンが手に入る。

＋

ボウル
＊表面につやがあり、色移りしないもの。

＋

オオキンケイギク
＊さきかけの若い花を集める。

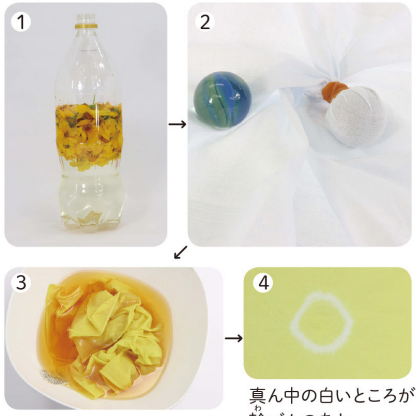
step up 外来種のあつかいに注意

オオキンケイギクは、生態系に悪いえいきょうをおよぼす外来種（特定外来生物）として、法律で移動やさいばいが禁止されています。種子と根っこが規制の対象で、生きたまま移動すると、罰金が科せられます。花を採るときは、種子が混じらないよう若い花だけを集めましょう。

オオキンケイギク

北アメリカ原産のキク科植物。全国各地の道ばたや川原などに生え、5～7月に花をさかせる。

オオキンケイギクの草木染め



真ん中の白いところが輪ゴムのあと。

①ペットボトルに、水900ccとクエン酸100g、オオキンケイギクの若い花を50個入れて、ふたをきっちりせずに4時間から一晩つけます。ときどき、ペットボトルをふって混ぜます。
②絹のハンカチか布にビー玉をはさみ、その根元を輪ゴムで強くしばります。しばったところに色が付かないため、模様（しぼり染め）になります。
③ ①の色水をざるでこしてボウルに移し、ハンカチを入れてよく混ぜます。4時間以上たったら焼きミョウバンを少量入れてよく混ぜ、1時間以上置きます。
④水洗いをしてかわかしたら完成。

応用編 重曹を入れるとオレンジ色に

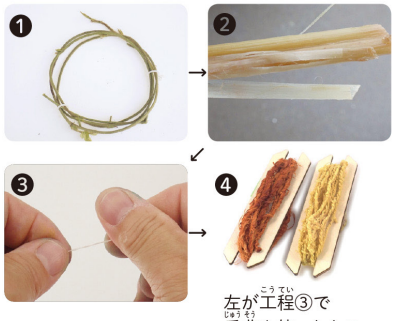
焼きミョウバンを入れる前（工程③）に重曹を入れると、色水がアルカリ性になってオレンジ色になります。ただし、重曹を入れるとクエン酸と反応して二酸化炭素のあわが出て色水がこぼれますので、大きめの容器に移してから少しずつ入れましょう。

しぼり染めの部分の黄色は、クエン酸のみの色。

重曹は、100円ショップで手に入る。

step up クズで糸を作って染めてみよう

クズ
つる性のマメ科植物。全国各地の日当たりのよい野山に生える。つるの長さは、10m以上にもなる。



左が工程③で重曹を使ったもの。

❶長いクズのつるを巻き取り、水をはったバケツに入れて日当たりのよい場所に置き、1週間ほどくさらせます。
❷くさった茎を水洗いしてもみます。糸のもとになる半透明の皮を茎からはがしたら、さらに水洗いしてからかんそうさせます。
❸かんそうさせた皮を細くさき、ねじるように回転させながらよりをかけます。それを2本束ねたら、反対方向によりをかけて糸にします。
❹糸を染めれば、オリジナルのクズ染め糸の完成。

外来種は時に広がってやっかいものにされます。でも、この方法だと楽しみながら繁殖をおさえられます。おうちの人や友達と100円ショップでお気に入りのハンカチを探して染めてみましょう。（小川）

◆自然を調べるプロのスゴ技にチャレンジ！　特別配信版（期間限定）／少年写真新聞社
『100円グッズと身近な道具でできる！ 博物館のプロのスゴ技で自然を調べよう ③標本と工作』
小川誠・奥山清市・矢野真志／共著（西日本自然誌系博物館ネットワーク）p.42-43より
※このシートは、非商業的な利用に限り使用を許諾します。　©小川誠・奥山清市・矢野真志